

4月2日(水) 本年度第38回(通算2724回)

雑誌月間によせて

担当/プログラム委員会

12時30分～釧路プリンスホテル

■メークアップ

3月22日 足立 功一君 (ロータリー財団・チーム研修)
3月29日 北川 健二君、中嶋 嘉昭君 (帯広北RC)

■出席報告【会員総数68名 免除7名 出席計算に用いた会員数68名】

出席者 39名 本日の出席率 57%

■ニコニコ献金

- ・高橋邦弘理事、丹葉委員長、本日よろしくお祈いします ～小野寺 英夫君
- ・残り3ヵ月よろしくお祈いします ～佐渡 正幸君
- ・誕生日です。ケーキを楽しみにしております ～北川 健二君
- ・入会9年目となりました。改めて宜しくお祈いします～泰地 浩幸君
- ・入会記念です ～松原 久幸君
- ・6日結婚式です。皆様お待ちしております ～中島谷 友一朗君
- ・結婚記念日です。4月4日ですが、4と4を合わせて「しあわせ」の日に結婚しました ～平井 昌弘君
- ・レターオープナーありがとうございます ～坂入 信行君
- ・クレインズ二冠達成！応援ありがとうございます ～中嶋 嘉昭君
- ・社長に就任しました。これからも宜しくお祈いします ～工藤 健司君

■会長挨拶 《小野寺会長》



みなさんこんにちは。新年度もスタートして何かとお忙しい中、本日も例会に参加いただきありがとうございます。この二三日暖かくなりましたが、まだまだ寒かったり暖かくなったりを繰り返しながら春に向かっていくようです。皆さんも風邪などひかないようにお気を付け下さい。

では会長あいさつをさせていただきます。

昨日から消費税が8パーセントに上がりました。安倍首相も本音では上げたくなかったと言われておりますが、アベノミクスで景気が少し上向きになって来ていると言われていの中で、水を差して足を引っ張る事にならないことを願います。会社経営として商売として世界のスタンダードは株主への利益還元を第一としており、無理に突き進んで意外と長く続かない事が有るように思いますが、日本人の心持としては「のれん」を守る「家名」を残すというような長く続けることに価値を見い出しているのか創業100年を超える所がたくさんあり、世界に誇れることだと思います。ただ単に長く続けること、それについてのご意見はあろうかと思いますが、私たちも長く続けることを目指したいものです。

新年度も色々と大変な一年になるかもしれませんが、粘り強く頑張り続けていきたいものだと思います。

以上会長あいさつといたします。。

■幹事報告 《佐渡幹事》



- ・会報が、根室ロータリークラブ、釧路北ローターアクトクラブより届いております。例会プログラムが、根室、浜中、釧路東、釧路南、釧路西、釧路バイロータリークラブより届いておりますので、回覧いたします。
- ・2500地区第7分区飲酒運転撲滅及び交通事故防止キャンペーンの第7回パークゴルフ大会の案内が届いておりますので、回覧いたします。
- ・釧路北ローターアクトクラブより、河川敷の清掃及び施設訪問、チャリティーフリーマーケットの開催の内が届いておりますので、回覧いたします。



丹葉一恵
ロータリー情報委員長

今期、雑誌委員長となりまして、ロータリーの友が皆様より1週間早く手元に届くようになり、いつもより多く目を通すようになりました。本当に世界のロータリアンの方々、日本のロータリアンの方々の活動や想いが色々と載っております。皆様も読まれたと思いますが2月号では、NPO法人ルワンダの教育を考える会理事長 カンベンガ・マリールイズルは、文字の読めない若者、明日の生活をどうしてよいか見通しが持てない若者がいます。そして彼らを利用する知識ある政治家たちがいたのです。自分の名前が読めない、書けない子どもたちをなくさなくてはいけない。このことが「平和づくり」の第一歩であると私は考えています。朝が覚めたら生きていることに感動し輝いて見えます。日本では安心して眠ることが出来る。その平和を感じて欲しいと言っております。次の世代に平和を託していきませんか、載っております。私達の日常が、いかに平和なのか忘れがちで、そうでない国や地域、子どもたちが居ると言うことを考えさせられました。

先日のIMでは北川ガバナー補佐の強い思いが、日本が誇りに思う田中作次元RI会長が遠い釧路まで来ていただき、夢のような素晴らしいIMとなりました。去年は毎回ロータリー友に載っていたRI会長が目の前にいらっしやる。力強い公演を聞くことができました。田中作次元RI会長は、奉仕の心を多くの人々にもっていただき、幸せと希望に満ちた世界をつくり、誰かの人生に喜びをもたらすと言うことは、自分の人生により良いものになり、世界平和が実現出来ると、提言されておりました。

心を繋ぐ方法の一つとして、去年の9月号に、本当に有り難う。と題しましてシカゴ在住のポールエングルマンさんの記事が載っていました。心を繋ぐお礼状についての事でした。お礼状は書くことは、単純な作業ですが、忙しい毎日ではあっという間に難問作業となってしまう、IT時代に益々略式化されたなか、お礼状は、文章は短く素早く送ると提唱しておりました。

私事ですが、息子が専門学校へ進学のため上京いたしました。その際、祖父が釧路新聞を送ってにくれていたそうで、体は東京ですが、いつも釧路を身近に感じられたことに感謝です。心を繋いでくれたんだと実感いたしました。

私自身も東京の美容学校へ進んだとき、一人暮らしの中で仕送りをもらい、使い道を書いて、釧路の両親に送ることで東京での生活が解ってもらえると思いました。それも1年で終わり2年目からは給料を貰い始めました。

4月のロータリーの友では、曹洞宗徳雄山建功寺住職・庭園デザイナー・多摩美術大学環境デザイン学科教授榎野俊明さんが、言葉では、一番大事なところは沈黙を重んじます。この余白、沈黙、間は、見る人に、余韻を生みます。このような日本の独特の美意識の背景に、禅は切っても切り離せない存在です。と日本の心が載ってますので是非お読み下さい。

この毎月のロータリー友が教科書とおっしゃった方がおりますが、まさに教科書であり、虎の巻であり、世界と繋がって心が広く暖かくなります。改めて、まさしく「ロータリー友」であると実感しております。私達は心を繋ぐ努力を毎日何気なくしているのです、周りの全てと心を繋いでいるのです。その元となるのは、相手を思いやる心、役に立ちたいと思う心が、相手に伝わり、心が繋がれていくのです。今日、このスピーチ原稿を制作しながら、更に強く実感することができ、感謝しております。



高橋邦弘アカデミー部門理事

ロータリーの情報源でもあります「ロータリーの友」は是非、しまい込まないで目を通していただきたいと思います。先ほど、丹葉委員長が活用法や、読み取っていただきたい内容を紹介いたしました。私達は、本当に飽食の世界を経験しておりますが、世界中では食べることもまともに出来ない子どもたちが、数多く生活していることに気付かされます。私も子どもの頃極貧でした。私は文字を書く商売をしておりましたが、文章は全く書けませんでした。職人として狭い世界生きてきました。先ほど、丹葉委員長からロータリー情報について、お話いただきましたので、私からは、ロータリーの友の発刊についてお話させていただく期待と思います。ロータリーの友の発刊のきっかけは、戦後、戦後、日本が一つ地区として、第60地区として承認されましたクラブは、7つのクラブしかありませんでした。東京、大阪、京都、神戸、名古屋、福岡、札幌。1952年が地区が東西に分割されることになりました。東が38、西が28のクラブに分割されました。それまで一つの地区で情報などを共有しておりましたが、分割されましたので、やはりみんなで共有する情報が欲しいと言うことで、お互いの情報交換などの目的により、翌年1953年にロータリーの友が発刊されました。

発刊にあたり、さまざまな意見でました。当初は横組みで発刊しておりましたが日本独特の、短歌、俳句など投稿は、横組みの紙面に突然、縦組みがあったりと不都合な部分がでてきましたので、現在の縦組みと横組みの両方の形となりました。一見分かりにくいですが、一応横組みが表し、縦組みが裏表紙となっています。2002年から、サイズ変更があり、B5判から現在のA4判となりました。ロータリーの友の発行部数は、1997年の最大時には、142,000部でしたが、現在は、会員数の減少もあり、95,600部となり、46,400部も減りました。

また、ザ・ロータリアンという機関情報誌もあります。RI初代会長、事務総長チェスリー・ペリーが1911年に、ザ・ロータリアンという情報誌を発刊した事が始まりで年間50万部ほど発刊しております。

最初の頃は、発行した1月25日を記念して、25日を含む一週間を雑誌週刊としました。その後、1978年から4月に移され、1984年から雑誌月間となりました。

ロータリーの友についてのエピソードを一つご紹介いたします。今から15年前になりますが、ロータリーの友にロータリーの誕生と成長という記事にロータリークラブ誕生時代背景の説明の記載がありました。現在のロータリークラブ誕生の時代背景の記載は、20世紀初頭のシカゴの街は著しい社会経済の発展の陰で商道德の欠如が目につくようになったという表現になっています。しかし、今から15年くらい前のロータリーの友には、ロータリークラブ誕生の時代背景の記載は、全く違う説明になっています。今から95年前の1905年、その頃の経済恐慌で人心の利潤の荒れ荒んでいたアメリカ社会、特にシカゴの状況を憂いだ。当時、世界恐慌が背景にあったと捉えられますが、実際は違います。世界恐慌とは世界中を巻き込んだニューヨークの株式市場が暴落して、世界の経済のしくみが壊れてしまったわけですが、それは、1924年頃の出来事ですので、時代背景が合わないと言うことに気づきまして、当時のロータリーの友の事務局に問い合わせをしたら、編集部は、時代背景に整合性が無い事は解っていますが、その時代背景の文章を作成したロータリアンが佐藤千寿という方で、なかなか間違っていますので、訂正という訳にはいかないという回答でした。今は、もう訂正されていますが、何と、間違った時代背景の記載のまま、2001年まで48年間発行していたそうです。雑誌を見ているとそうした発見もあり、楽しいものです。

是非、皆様もお時間が無い方も多いとは思いますが、出来るだけ目を通していただければと思います。